

発達症への介入による国民的健康課題の解決
令和6年度（2024年度）シラバス

京都大学大学院医学研究科履修証明プログラム

目次

発達症総論.....	1
母子精神保健.....	2
母性看護・助産学と精神科看護学.....	3
就労における ASD の課題.....	4
ASD 概論（概念、診断、臨床的特徴）.....	5
ASD の精神生理とエビデンス.....	6
ASD と睡眠.....	7
ASD とてんかん.....	8
精神症状と精神疾患.....	9
ASD 臨床論 1（幼児期、学童期）.....	10
ASD 臨床論 2（青年期、大学生）.....	11
ASD 臨床論 3（成人期）.....	12
ASD と併存症・二次障害.....	13
ASD と司法的問題（少年事件、刑事事件）.....	14
精神科作業療法.....	15
ASD と発達リハビリテーション、音楽療法.....	16
ASD と精神科リハビリテーション.....	17
精神科薬物療法.....	18
精神療法と心理教育.....	19
発達症介入論 1（医療：うつ、社交不安、依存、トラウマなど）.....	20
発達症介入論 2（学校保健：不登校、いじめ、自殺企図など）.....	21
発達症介入論 3（社会生活：ひきこもり、就労支援、子育て支援など）.....	22
発達症介入論 4（司法領域：少年事件、刑事事件）.....	23
ASD とアート.....	24
精神科リハビリテーション実習.....	25
発達リハビリテーション実習.....	26
幼稚園・保育園見学／ケース分析実習.....	27
ケース・インタビュー実習.....	28
認知機能評価実習.....	29
心理検査実習.....	30
司法ケース分析演習.....	31
ASD 臨床研究方法論.....	32
事例分析論文.....	33

発達症総論

科目区分：ASD 概論

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

我が国における社会問題の背景に ASD が大きく関与していることを理解するためにライフステージに沿って実際を学ぶ。

特に、ASD のある人々がライフステージを通じて直面する課題と問題について、保育、教育、就労、社会生活などを包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の概要・歴史

第2回. 本邦における社会問題と ASD との関連

第3回. 定型的な精神・心理発達

第4回. ASD のライフステージにおける課題（概要）

フィードバック

3. 到達目標

- 発達症の歴史と社会問題の背景を知る
- ライフステージにおける ASD の問題と課題の表れ方を理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

母子精神保健

科目区分：ASD 概論

担当教員：吉田敬子

授業時間数：2 時間

1. 科目概要

我が国における社会問題の背景に ASD が大きく関与していることを理解するためにライフステージに沿って実際を学ぶ。

特に、生涯にわたる健康の基礎を築く出発点として母子精神保健を理解し、ASD のある人が心身ともに健やかな成長に携わる観点を学ぶ。主に、ASD のある人に関する妊娠・出産・育児期から思春期における一連の精神保健支援の実際を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. 母子精神保健における母子相互作用の考え方

第2回. 周産期うつ病（マタニティブルー）

第3回. ASD 児の非定型発達と母子精神保健

第4回. 乳幼児健診，ライフサイクルの中での母子と家族への支援
フィードバック

3. 到達目標

- ASD の母子精神保健を理解する
- 妊娠・出産・育児期から思春期における一連の精神保健支援を理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

母性看護・助産学と精神科看護学

科目区分：ASD 概論

担当教員：古田真里枝、須賀原教子

授業時間数：2 時間

1. 科目概要

我が国における社会問題の背景に ASD が大きく関与していることを理解するためにライフステージに沿って実際を学ぶ。

主に、妊娠・分娩・育児期に関連する ASD の知識、および ASD のある人を養育する家族の課題と援助に関する基本的な知識を習得する。さらに、ASD のある人への対応と支援に限らず、ASD のある人とその家族の心の健康を保持・増進活動を促進するための実際を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. 精神科看護の基本的アプローチ

第2回. ASD のある保護者への看護的支援

第3回. ASD が疑われる子供の育児支援

第4回. 養育者に起こりうる精神面での変化

第5回. 早期発見と支援へのつなぎ

フィードバック

3. 到達目標

- 妊娠・分娩・育児期に関連する ASD の知識を習得する
- ASD のある人を養育する家族の課題と援助に関する基本的な知識を習得する
- ASD のある人とその家族の心の健康を保持・増進活動を促進するための実際を学ぶ

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

就労における ASD の課題

科目区分：ASD 概論

担当教員：中野育子

授業時間数：2 時間

1. 科目概要

我が国における社会問題の背景に ASD が大きく関与していることを理解するためにライフステージに沿って実際を学ぶ。

特に、ASD のある人々が社会参加していくときに直面する就労の課題と問題を臨床実践に即して理解する。また、ASD のある人の特長を活かした就労支援の実際を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の成人の就労をめぐる問題の現状

第2回. ASD の成人に対する就労支援の考え方

第3回. 有効な就労支援のネットワークのあり方

フィードバック

3. 到達目標

- ASD のある人々就労の課題と問題を臨床実践に即して理解する
- ASD のある人の特長を活かした就労支援のあり方を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASD概論（概念、診断、臨床的特徴）

科目区分：ASD 臨床基礎論

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援するのに必要な ASD の医学的知識と精神生理を理解する。

特に、ASD の疾患概念の変遷、現在主流となっている診断分類、および ASD の臨床的特徴を臨床に即した医学的知識と精神生理の特徴を習得する。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の歴史

第2回. 現在の ASD 概念

第3回. 併存症・合併症も含めた ASD の臨床像

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の疾患概念の変遷を理解する
- ASD に関する診断分類を知る
- ASD の臨床的特徴に関する医学的知識と精神生理の特徴を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDの精神生理とエビデンス

科目区分：ASD 臨床基礎論

担当教員：魚野翔太

授業時間数：1時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援するのに必要な ASD の医学的知識と精神生理を理解する。

特に、ASD の脳機能障害や認知機能障害に関する医学知識、および学術論文で提起されている情報を交えてエビデンスに基づいて ASD の精神生理学の最新知見を習得する。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD に関する仮説の変遷

第2回. ASD の認知機能の非定型性

第3回. 関与が想定される脳領域

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の脳機能障害や認知機能障害に関する医学知識を知る
- ASD の精神生理学の最新知見を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDと睡眠

科目区分：ASD 臨床基礎論

担当教員：若村智子、村上純一

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援するのに必要な ASD の医学的知識と精神生理を理解する。

特に、健常者の睡眠機能だけでなく、ASD の睡眠機能障害の最新情報を習得する。

2. 授業計画と内容

第1回. 睡眠にかかわる生理学的機構

第2回. 頻度の高い睡眠障害

第3回. ASD にみられる睡眠障害とその治療

フィードバック

3. 到達目標

- 健常者の睡眠機能を比較させながら ASD の睡眠機能障害を理解する
- ASD の睡眠機能障害の最新情報を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDとてんかん

科目区分：ASD 臨床基礎論

担当教員：深尾憲二郎、杉山修

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援するのに必要な ASD の医学的知識と精神生理を理解する。

特に、脳内の異常な電氣的活動によって引き起こされるてんかんの診断と鑑別、およびけいれん発作の分類について習得するとともに、ASD に伴うてんかんに関連するエピソードの特徴とその対応について理解する。てんかん発作に対する主な治療法についても理解を深める。

2. 授業計画と内容

第1回. てんかん分類とてんかん発作分類

第2回. 注意すべきてんかん発作症状

第3回. ASD に併存しやすいてんかん

第4回. てんかんを併存する ASD 児への療育

フィードバック

3. 到達目標

- てんかんの診断と鑑別、およびけいれん発作の分類を知る
- ASD に伴うてんかんに関連するエピソードの特徴とその対応について理解する
- てんかん発作に対する主な治療法について理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

精神症状と精神疾患

科目区分：ASD 臨床基礎論

担当教員：谷向仁、上床輝久

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

我が国における社会問題の背景に ASD が大きく関与していることを理解するためにライフステージに沿って実際に学ぶ。

特に、ASD の診断、ASD に類縁の疾患群との鑑別について、精神症状と心理・行動特性を踏まえた国際的に通用する診断基準にしたがって、診断の運用を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第5回. ASD との鑑別が必要となる疾患群およびその症状

第6回. ASD に認められやすい精神症状と心理・行動特性

第7回. 事例を通じた診断基準の理解

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の診断と鑑別に関する知識を知る
- ASD に認められやすい精神症状と心理・行動特性を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

A S D臨床論 1 (幼児期、学童期)

科目区分：ASD のライフステージ介入技法

担当教員：本田秀夫

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージを通じて起り得る問題に対してオールラウンダーとして応用の効く基礎技能のうえに、高度な専門性を要する技能を身に着けるための介入技法の実際を学ぶ。

特に、ASD のある人々が幼児期や学童期において直面する可能性の高いいじめやひきこもり等の問題、および成長過程で乗り越えていくための諸課題に対して支援していく視点を理解する。養育者だけでなく教育関係者の視点も含めて包括的に理解を深める。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD による早期の臨床的問題

第2回. ASD 児の療育に関する考え方と基本方針

第3回. ASD 児の療育の選択、目標と長期予後

フィードバック

3. 到達目標

- ASD のある人々が幼児期や学童期において直面する可能性の高いいじめやひきこもり等の問題、および成長過程で乗り越えていくための諸課題を理解する。
- 養育者と教育関係者の視点も含めて包括的に理解を深める。

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASD臨床論2（青年期、大学生）

科目区分：ASDのライフステージ介入技法

担当教員：義村さや香、上床輝久

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASDの人がライフステージを通じて起り得る問題に対してオールラウンダーとして応用の効く基礎技能のうえに、高度な専門性を要する技能を身に着けるための介入技法の実際を学ぶ。

特に、ASDのある人々が青年期において直面する可能性の高い諸問題、とりわけ大学生活において困難が表面化しやすい人間関係や学業上の課題を、ASDのある人の特性に応じ支援していくための必要な視点を理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 青年期 ASD の臨床像

第2回. 人間関係および学業上の課題

第3回. 青年期における支援の基本方針と目標

フィードバック

3. 到達目標

- ASDのある人々が青年期において直面する可能性の高い諸問題を、ASDのある人の特性に応じ支援していくための必要な視点を理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

A S D臨床論3 (成人期)

科目区分：ASD のライフステージ介入技法

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージを通じて起り得る問題に対してオールラウンダーとして応用の効く基礎技能のうえに、高度な専門性を要する技能を身に着けるための介入技法の実際を学ぶ。

特に、ASD のある人々が成人期において直面する可能性の高い諸問題、とりわけ就労場面で指摘されているアブセンティズムやプレゼンティズムといった困難の背景にある行動特性に応じた支援と問題解決につながる介入技法の実際を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. 成人期 ASD の臨床像

第2回. 高次対人状況に伴う混乱

第3回. 就労の際に起こりうる問題と背景にある行動特性

第4回. 成人期における支援の基本方針と目標

フィードバック

3. 到達目標

- ASD のある人々が成人期において直面する可能性の高い諸問題の背景にある行動特性に応じた支援と問題解決につながる介入技法の実際を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDと併存症・二次障害

科目区分：ASDのライフステージ介入技法

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASDの人がライフステージを通じて起り得る問題に対してオールラウンダーとして応用の効く基礎技能、及び高度な専門性を要する技能を身に着けるための介入技法の実際を学ぶ。

特に、ASDのある人々が幼児期、学童期、青年期、成人期を通じて併存する可能性の高い抑うつや適応障害といった精神医学的問題について理解する。ASDの併存症に続いて起こる二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、ゲームとギャンブル依存についても介入技法の実際と、多職種連携によって支援していくためのポイントを理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 併存症

第2回. 広義の精神医学的問題も含めた合併症状

第3回. 治療/対応方法

第4回. 関与する機関との連携

フィードバック

3. 到達目標

- ASDのある人々が幼児期、学童期、青年期、成人期を通じて併存する可能性の高い抑うつや適応障害といった精神医学的問題について理解する
- ASDの併存症に続いて起こる二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、ゲームとギャンブル依存に対する介入技法の実際を知る
- 多職種連携によって支援していくためのポイントを理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

A S D と司法的問題（少年事件、刑事事件）

科目区分：ASD のライフステージ介入技法

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の人がライフステージを通じて起り得る問題に対してオールラウンダーとして応用の効く基礎技能のうえに、高度な専門性を要する技能を身に着けるための介入技法の実際を学ぶ。

特に、ASD のある人々が起こした少年事件や刑事事件の事例を通して、児童精神医学の立場から ASD の心理・行動特徴を理解する。現行の司法制度を踏まえて、ASD のある人の更生を支援していくうえでの処遇の実情や、専門機関との連携のしかたについても理解を深める。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の司法事件に見られる特徴

第2回. 事例を介した状態・状況の理解

第3回. 司法判断・処遇の現状とその問題点

フィードバック

3. 到達目標

- 児童精神医学の立場から ASD のある人々が起こした少年事件や刑事事件の事例を理解する
- 現行の司法制度を踏まえて、ASD のある人の更生を支援していくうえでの処遇の実情、および専門機関との連携のしかたについて理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

精神科作業療法

科目区分：ASD の医学的介入

担当教員：稲富宏之

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASD の精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

特に、医学的介入の 1 つとして処方される精神科作業療法は、障害の改善だけでなくその人の潜在能力の発掘と成長を促すのに役立つことから、ASD のある人々への積極的応用が期待されている。そのため、精神科作業療法の治療構造と使い方を学び、ASD のある人に適用していくための視点を理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 作業療法の方法論と特徴

第2回. 精神疾患と精神科作業療法

第3回. ASD に対する精神科作業療法

フィードバック

3. 到達目標

- 精神科作業療法の治療構造と使い方を知る
- 精神科作業療法を ASD のある人に適用していくための視点を理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDと発達リハビリテーション

科目区分：ASDの医学的介入

担当教員：草野 祐介

授業時間数：2.5時間

1. 科目概要

ASDの生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASDの精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

特に、発達リハビリテーションは、感覚の過敏、視機能の問題、運動の不器用さ（発達性協調運動障害）などの感覚運動機能のつまずきを実生活や人間関係への適応を促すのに役立てられてきた。その観察の視点と方法、つまずきの要因の分析、学習や日常生活への影響について理解を深める。

2. 授業計画と内容

第1回. ASDにおける感覚と運動の問題

第2回. 感覚統合（SI）を用いた発達リハビリテーション
フィードバック

3. 到達目標

- ASDの発達リハビリテーションの実際を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

音楽療法

科目区分：ASD の医学的介入

担当教員：糟谷由香

授業時間数：2.5時間

1. 科目概要

ASD の生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASDの精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

感覚過敏に対する緩和、および心身の健康増進に積極的に用いられることが期待される音楽セラピーの実際についても学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. 認知機能に対する音楽療法の効果

第2回. ASD 事例への音楽療法の適用

フィードバック

3. 到達目標

- ASD に対して用いられる音楽セラピーの実際を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDと精神科リハビリテーション

科目区分：ASDの医学的介入

担当教員：服部 律子

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASDの生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASDの精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

特に、精神科リハビリテーションは、精神科作業療法や発達リハビリテーションを含めた包括的なアプローチである。さらに、多職種による連携で支援する視点もあるので、ASDのある人々に適用される医学的介入の実際を理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 作業療法を用いた精神科リハビリテーション

第2回. ASDの認知特性に配慮した作業療法の選択

第3回. デイケアにおけるASD事例の社会適応支援
フィードバック

3. 到達目標

- ASDの精神科リハビリテーションを知る
- 精神科リハビリテーションにおいて多職種連携によるASD支援の実際を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

精神科薬物療法

科目区分：ASD の医学的介入

担当教員：岡田俊、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASD の精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

特に、ASD に対する薬物療法の目的と考え方、さらに ASD に併存する症状や二次障害への対処として行われる薬物療法の実際を理解する。また、薬物療法に伴う副作用の知識と医師、および看護師と薬剤師との連携のあり方についても学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の診療で用いられる主な向精神薬

第2回. 抗精神病薬（メジャーランキライザー）の特徴

第3回. 児童精神科薬物療法概論

第4回. 発達症診療における薬物療法

フィードバック

3. 到達目標

- ASD に対する薬物療法の目的と考え方を理解する
- ASD に併存する症状や二次障害への対処として行われる薬物療法の実際を理解する
- ASD の薬物療法に伴う副作用の知識を知る
- ASD の薬物療法に関する医師、および看護師と薬剤師との連携のあり方を知る

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

精神療法と心理教育

科目区分：ASD の医学的介入

担当教員：吉川徹

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の生物学的背景および、精神生理と関連させながら、精神医学、リハビリテーション、臨床心理学といった複合領域における基礎知識と医療的介入の実際について理解する。ASD の精神生理に関する最近の医学的研究の動向も学ぶ。

特に、薬物療法と並んで重要とされる ASD に対する精神療法と心理教育について学ぶ。ASD のある人々の現実適応を促すのに役立つ精神療法の知識と態度の身につける。そして、ASD のある人々が自己実現の達成、および自らの行動特徴の理解に役立てられる心理教育の実際を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. ASD の心理特性と面接のあり方

第2回. ASD 事例への精神療法と心理教育

第3回. 家族への心理教育

フィードバック

3. 到達目標

- ASD に対する精神療法と心理教育を理解する
- ASD のある人々の現実適応を促すのに役立つ精神療法の知識と態度の身につける
- ASD のある人々が自己実現の達成、および自らの行動特徴の理解に役立てられる心理教育の実際を理解する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

発達症介入論 1 (医療：うつ、社交不安、依存、トラウマなど)

科目区分：ASD のソーシャルワーク

担当教員：中山秀紀、崎濱盛三、天野玉記、吉川徹

授業時間数：7時間

1. 科目概要

ASD のある人々をライフステージで社会的介入していくときにキーパーソンとなる保護者、教育関係者、医療機関の専門家、事業場内スタッフ、司法関係者といった支援者とのかわり方や協力のしかたの実際を学ぶ。

特に、社会的介入するときの知識と考え方について、保育、教育、就労、社会生活などのライフステージで理解しておくべき医療における問題と課題を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 依存の様態と治療

第2回. ASD における依存

第3回. ASD の社交不安と抑うつとその治療

第4回. ASD のトラウマの特徴とその治療

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の社会的介入するときの知識と考え方について、ライフステージで理解しておくべき医療における問題と課題を包括的に理解する。

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

発達症介入論 2 (学校保健：不登校、いじめ、自殺企図など)

科目区分：ASD のソーシャルワーク

担当教員：生天目聖子、義村さや香、十一元三

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASD のある人々をライフステージで社会的介入していくときにキーパーソンとなる保護者、教育関係者、医療機関の専門家、事業場内スタッフ、司法関係者といった支援者とのかわり方や協力のしかたの実際を学ぶ。

特に、社会的介入するときの知識と考え方について、保育、教育、就労、社会生活などのライフステージで理解しておくべき学校保健における問題と課題を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 保育・教育の現場で実際に起こりやすい問題とその背景

第2回. 児童・青年期に活用可能な社会資源

第3回. 保育・教育における効果的な対応・介入

第4回. 医療との連携

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の社会的介入するときの知識と考え方について、ライフステージで理解しておくべき学校保健における問題と課題を包括的に理解する。

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

発達症介入論3（社会生活：ひきこもり、就労支援、子育て支援など）

科目区分：ASDのソーシャルワーク

担当教員：山本彩

授業時間数：2時間

1. 科目概要

ASDのある人々をライフステージで社会的介入していくときにキーパーソンとなる保護者、教育関係者、医療機関の専門家、事業場内スタッフ、司法関係者といった支援者とのかわり方や協力のしかたの実際を学ぶ。

特に、社会的介入するときの知識と考え方について、保育、教育、就労、社会生活などのライフステージで理解しておくべき社会生活における問題と課題を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 社会生活で実際に起こりやすい問題とその背景

第2回. 社会生活支援のために活用可能な社会資源

第3回. 社会生活における効果的な対応・介入

第4回. 医療との連携

フィードバック

3. 到達目標

- ASDの社会的介入するときの知識と考え方について、ライフステージで理解しておくべき社会生活における問題と課題を包括的に理解する。

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

発達症介入論 4（司法領域：少年事件、刑事事件）

科目区分：ASD のソーシャルワーク

担当教員：熊上崇、義村さや香

授業時間数：4 時間

1. 科目概要

ASD のある人々をライフステージで社会的介入していくときにキーパーソンとなる保護者、教育関係者、医療機関の専門家、事業場内スタッフ、司法関係者といった支援者とのかわり方や協力のしかたの実際を学ぶ。

特に、社会的介入するときの知識と考え方について、保育、教育、就労、社会生活などのライフステージで理解しておくべき司法領域における問題と課題を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 処遇の流れ

第2回. 司法症例におけるアセスメント

第3回. 社会生活を再開するにあたって考慮すべき要素

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の社会的介入するときの知識と考え方について、ライフステージで理解しておくべき司法領域における問題と課題を包括的に理解する。

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASDとアート

科目区分：ASD のソーシャルワーク

担当教員：松井紫朗

授業時間数：4 時間

1. 科目概要

ASD の人は適性の合う業務につくと精神的に安定するだけでなく優れた能力を発揮することも知られるようになった。ASD のある人々をライフステージで社会的介入していくとき、ASD の特長を活かしたかかわり方や協力のしかたの実際を学ぶ。

特に、ASD の長所が発揮される分野であるアートを取り上げ、ASD の特長を広い視野から眺めることのできる視点を学ぶ。

2. 授業計画と内容

第1回. 常識とアートとの関係

第2回. 造形芸術からみた ASD の外界認識

第3回. アーティストと ASD

第4回. ASD とアートの資質

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の特長を広い視野から眺めることのできるアートの視点を学ぶ

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

精神科リハビリテーション実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：服部律子

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、参加・体験型実習を通して精神科リハビリテーションを利用する ASD の人の臨床実践過程を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 精神科リハビリテーション利用者の状態像のアセスメント

第2回. ASD 事例への精神科リハビリテーションプログラム作成の留意点

第3回. ASD 事例への介入効果の評価法

フィードバック

3. 到達目標

- 精神科リハビリテーション利用者である ASD の臨床実践過程を包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

発達リハビリテーション実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：加藤寿宏

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、参加・体験型実習によって発達リハビリテーション場面の ASD の臨床実践過程を包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 児童を対象とした発達リハビリテーションの実践例の体験

第2回. ASD 児への発達リハビリテーションの考え方

第3回. 感覚統合を用いた ASD 児のリハビリテーションの実際

フィードバック

3. 到達目標

- 発達リハビリテーション場面の ASD の臨床実践過程を包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

幼稚園・保育園見学／ケース分析実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：堀田千絵

授業時間数：8 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、参加・体験型実習によって幼稚園・保育園を利用する ASD の支援過程をケース分析して包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 幼児集団の中での ASD 児童のふるまい

第2回. 実症例のアセスメントへの参加

第3回. 実症例の支援プランの作成

フィードバック

3. 到達目標

- 幼稚園・保育園を利用する ASD のある人の支援過程をケース分析して包括的に理解する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ケース・インタビュー実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、臨床実践課程で必須となるケース・インタビューの技能を参加・体験型実習で包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 実症例における診断の検討

第2回. 実症例の評価データの解釈

第3回. 実症例へのケース・インタビュー

第4回. 実症例の支援プランの作成

フィードバック

3. 到達目標

- 臨床実践課程で必須となるケース・インタビューの技能を参加・体験型実習で包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

認知機能評価実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：十一元三、魚野翔太

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、臨床実践課程で必須となる認知機能に関する測定と評価技能を参加・体験型実習で包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 認知にともなう自律神経活動の計測と評価

第2回. 社会的刺激に対する共同注意の計測と評価

第3回. 他者の表情認知の測定と評価

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の認知機能に関する測定と評価技能を参加・体験型実習で包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

心理検査実習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：生天目聖子

授業時間数：3時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、臨床実践課程で必須となる心理検査に関する測定と評価技能を参加・体験型実習で包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 発達検査の実施法と発達評価への利用法

第2回. ウェクスラー知能検査の実施法と分析方法

第3回. 描画検査の実施法と ASD 事例の特徴

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の心理検査に関する測定と評価技能を参加・体験型実習で包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

司法ケース分析演習

科目区分：ASD の実践のための臨床実習

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：3 時間

1. 科目概要

ASD の診断や評価データの解釈から支援と指導に至る臨床実践過程を経験し、その実践的な専門的対応力を臨床実習によって高めることにある。

特に、臨床実践課程で必須となる司法ケースの分析技能を参加・体験型実習で包括的に理解する。

2. 授業計画と内容

第1回. 司法症例における診断の検討

第2回. 司法症例の評価データの解釈

第3回. 司法症例の支援プランの検討

フィードバック

3. 到達目標

- ASD の司法ケースの分析技能を参加・体験型実習で包括的に習得する

4. 授業形態

- 参加・体験型による演習と実習

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 演習と実習で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

ASD臨床研究方法論

科目区分：ASD 課題解決のための実践学

担当教員：魚野翔太、大塚貞男、藤原広臨

授業時間数：8時間

1. 科目概要

ASD の診断と評価の基礎になる医学的知識と特徴的な精神生理を理解し、ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援できるとともに、メンタルヘルス問題に関連する医学、保健学、心理/社会学、リハビリテーション科学などの複合領域の知識と技術を用いて学術的視点で実務として問題解決できることを目指す。

特に、ASD のある人々がライフステージを通じて直面する課題と問題を臨床研究によって解決できる方法論を身につける。

2. 授業計画と内容

第1回. 文献検索

第2回. 実際の研究と臨床への還元

第3回. 介入研究

3. 到達目標

- ASD のある人々がライフステージを通じて直面する課題と問題を臨床研究によって解決できる方法論を習得する

4. 授業形態

- 対面形式による講義

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 授業で提示される知識の習熟度
- レポートの達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度

事例分析論文

科目区分：ASD 課題解決のための実践学

担当教員：義村さや香、十一元三

授業時間数：12時間

1. 科目概要

ASD の診断と評価の基礎になる医学的知識と特徴的な精神生理を理解し、ASD の人がライフステージで直面する諸課題に対して適切に対応し支援できるとともに、メンタルヘルス問題に関連する医学、保健学、心理/社会学、リハビリテーション科学などの複合領域の知識と技術を用いて学術的視点で実務として問題解決できることを目指す。

特に、ASD 臨床研究方法論を応用して事例分析論文を作成し、ASD のある人を高度専門支援者の視点で報告と説明ができるようなプレゼンテーション能力を身につける。

2. 授業計画と内容

第1回. 事例分析

第2回. 分析論文の作成

第3回. 症例に関するプレゼンテーション

第4回. プレゼンテーションの内容に関するグループディスカッション

3. 到達目標

- ASD 臨床研究方法論を応用して事例分析論文を作成できる
- ASD のある人を高度専門支援者の視点で報告と説明ができるようなプレゼンテーション能力を習得する

4. 授業形態

- 対面形式による講義
- プレゼンテーション形式

5. 教科書・参考書・資料

- 教科書と参考書について授業で紹介し解説する
- 配布資料

6. 受講者に対する評価方法

- 事例分析論文の達成度
- 授業内で課されるテーマや討論への関与度
- プレゼンテーションの達成度